

ブロイラーの飼養条件が鶏舎環境に及ぼす影響

三八地域県民局地域農林水産部八戸家畜保健衛生所

○二俣雅之 中里雅臣

管内の養鶏農場数の約7割を占めるブロイラー農場での生産性向上のため、当所では平成22年度から鶏舎環境調査を継続。今回、飼養条件の違いと鶏舎環境との関係を調査。対象農場は、経営者が同一で鶏舎構造が異なる2農場とし、鶏舎構造（セミウインドレス鶏舎、開放鶏舎）、飼養時期（冬季、夏季）、給与飼料（抗生物質・抗菌剤添加飼料給与（以下、有薬）、無添加飼料給与（以下、無薬））の違いによる、敷料中の生菌数、敷料及び糞便中コクシジウムオーシスト数のモニタリング調査と淘汰鶏及び敷料由来の分離大腸菌の薬剤耐性獲得状況を比較。調査の結果、敷料中の一般生菌数及び大腸菌群数は入すうから出荷までを通し、鶏舎構造にかかわらず夏季の方が多く、有薬と無薬鶏舎では差が認められず。一方、コクシジウムオーシスト数は冬季やセミウインドレス鶏舎、無薬鶏舎で多い傾向。薬剤感受性試験では由来材料や季節、農場により異なるパターンを示した。以上の結果から、鶏舎内の環境は、鶏舎の構造の違いよりも季節での変動が大きく、給与飼料（有薬、無薬）での変動は小さいものと推測され、今後の鶏舎環境の改善や飼養管理マニュアルに応用。